

# 厚生年金 選択肢の利点とリスクは何か？

社会保険 遠藤 忠彦

## DB、DC、中退共、一時金を選択

厚生年金基金が代行返上や解散によって減少している(3月13日号参照)。加入事業所としては、積立不足分を一括拠出して任意脱退しようとすると、代議員会での承認が必要などのハードルがある。もしくは、基金が新たに実施する制度に加入するか、または独自の制度を採るか、制度ごとのメリットやリスクを考慮して、選択する必要がある。

〈選択肢としての各制度の比較〉

	DB (厚生年金基金)	DC	中退共	退職一時金
メリット	・事業主掛金は損金計上可 ・総合型では退職給付債務の計上は不要	・事業主掛金は損金計上可 ・退職金を事前に積立可	・事業主掛金は損金計上可 ・退職給付債務の計上は不要	・退職金は損金計上可
留意点	・年金資産にかかる特別法人税あり(現在凍結中) ・運用による損失や掛金が変動する可能性 ・金融機関による人数の制限あり ・毎年財政検証が必要	・年金資産にかかる特別法人税あり(現在凍結中) ・投資教育が必要 ・拠出限度額あり	・中小企業の要件あり	・毎年の資金負担が変動する ・引当金は有税 ・退職給付債務の計上が必要
メリット	・給付が安定的 ・退職時に年金か一時金を受け取り可 ・加入者掛金は社会保険料控除	・給付が安定的 ・退職時に年金か一時金を受け取り可 ・加入者掛金は生命保険料控除	・投資教育あり ・加入者掛金の所得控除が大きい	・給付が安定的 ・退職時に退職所得控除
留意点	・給付減額のリスク	・給付が運用実績により変動 ・60歳まで原則引出不可	・従業員拠出は不可	

今回は様々な選択肢のメリットや留意点を考える。厚生年金基金と同様の確定給付型の制度である「確定給付企業年金」での選択肢の概要を紹介する。

Q 基金の今後の方向性に対して事業所はどのように対処するか。

A 厚生年金基金の選択肢としては、①存続 ②代行返上を行って確定給付企業年金に移行 ③解散の大きく3つに分かれる。存続するにしても、財政を健全に保つために、掛金の増額や給付の減額を行う必要が出てくる。代行返上し、基金の事務局の機能や代議員会などの決定組織を残そうとすると、基金型の確定給付企業年金(総合型D

B)に移行する。これまでの厚生年金基金の退職金見合いの給付とするかどうか。2014年4月施行の改正厚生年金保険法で、他の制度に移行しやすくなることで、残された資産を移換して、加入事業所ごとの制度設計が可能になっていく。

Q 中小零細企業が多く、制度設計や管理に担当者を割けないことを考えると、掛金の定額制度などシンプルな制度がよいだろう。魅力的な制度がなければ、企業年金に戻らずに退職一時金にのみ戻ると、企業年金となるか、給付が薄く従業員が認識しては、いなければ、場合によっては一時金を支払ってなくなってしまうかもしれない。

Q 加入事業所にとっての選択肢のメリットや

## DBでキャットシユバランス普及

Q DBでは、キャットシユバランス制度が普及しているようだが、どのような制度か。

A 確定給付型の制度にもかわらず、給付が安定的で、積立不足や掛金の追加拠出が発生しにくい。人事院の調査(平成23年)では、従業員50人以上の民間企業で、確定給付型の企業年金(確定給付企業年金、厚生年金基金)のうち22.7%、1000人以上の大企業では、53.3%が採用している。

DBとDCの両方の特徴が大きく変わる中小企業の退職金・企業年金(2)

Q DBの場合、どのような選択肢や導入にあたっての留意点があるか。

A DBは給付が決まっていることから、退職金には最も適しているが、企業にとって追加負担というリスクがある。また、毎年決算を行い、財政のチェックが行われるという煩わしさがある。

Q 加入事業所にとっての選択肢のメリットや

Q DBの場合、どのような選択肢や導入にあたっての留意点があるか。

A DBは給付が決まっていることから、退職金には最も適しているが、企業にとって追加負担というリスクがある。また、毎年決算を行い、財政のチェックが行われるという煩わしさがある。

Q 加入事業所にとっての選択肢のメリットや

Q DBの場合、どのような選択肢や導入にあたっての留意点があるか。

A DBは給付が決まっていることから、退職金には最も適しているが、企業にとって追加負担というリスクがある。また、毎年決算を行い、財政のチェックが行われるという煩わしさがある。

Q DBの場合、どのような選択肢や導入にあたっての留意点があるか。

A DBは給付が決まっていることから、退職金には最も適しているが、企業にとって追加負担というリスクがある。また、毎年決算を行い、財政のチェックが行われるという煩わしさがある。

Q 加入事業所にとっての選択肢のメリットや

Q DBの場合、どのような選択肢や導入にあたっての留意点があるか。

A DBは給付が決まっていることから、退職金には最も適しているが、企業にとって追加負担というリスクがある。また、毎年決算を行い、財政のチェックが行われるという煩わしさがある。

Q 加入事業所にとっての選択肢のメリットや

Q DBの場合、どのような選択肢や導入にあたっての留意点があるか。

A DBは給付が決まっていることから、退職金には最も適しているが、企業にとって追加負担というリスクがある。また、毎年決算を行い、財政のチェックが行われるという煩わしさがある。

Q DBの場合、どのような選択肢や導入にあたっての留意点があるか。

A DBは給付が決まっていることから、退職金には最も適しているが、企業にとって追加負担というリスクがある。また、毎年決算を行い、財政のチェックが行われるという煩わしさがある。

Q 加入事業所にとっての選択肢のメリットや

Q DBの場合、どのような選択肢や導入にあたっての留意点があるか。

A DBは給付が決まっていることから、退職金には最も適しているが、企業にとって追加負担というリスクがある。また、毎年決算を行い、財政のチェックが行われるという煩わしさがある。

Q 加入事業所にとっての選択肢のメリットや

Q DBの場合、どのような選択肢や導入にあたっての留意点があるか。

A DBは給付が決まっていることから、退職金には最も適しているが、企業にとって追加負担というリスクがある。また、毎年決算を行い、財政のチェックが行われるという煩わしさがある。

Q DBの場合、どのような選択肢や導入にあたっての留意点があるか。

A DBは給付が決まっていることから、退職金には最も適しているが、企業にとって追加負担というリスクがある。また、毎年決算を行い、財政のチェックが行われるという煩わしさがある。

Q 加入事業所にとっての選択肢のメリットや

Q DBの場合、どのような選択肢や導入にあたっての留意点があるか。

A DBは給付が決まっていることから、退職金には最も適しているが、企業にとって追加負担というリスクがある。また、毎年決算を行い、財政のチェックが行われるという煩わしさがある。

Q 加入事業所にとっての選択肢のメリットや

Q DBの場合、どのような選択肢や導入にあたっての留意点があるか。

A DBは給付が決まっていることから、退職金には最も適しているが、企業にとって追加負担というリスクがある。また、毎年決算を行い、財政のチェックが行われるという煩わしさがある。

Q DBの場合、どのような選択肢や導入にあたっての留意点があるか。

A DBは給付が決まっていることから、退職金には最も適しているが、企業にとって追加負担というリスクがある。また、毎年決算を行い、財政のチェックが行われるという煩わしさがある。

Q 加入事業所にとっての選択肢のメリットや

Q DBの場合、どのような選択肢や導入にあたっての留意点があるか。

A DBは給付が決まっていることから、退職金には最も適しているが、企業にとって追加負担というリスクがある。また、毎年決算を行い、財政のチェックが行われるという煩わしさがある。

Q 加入事業所にとっての選択肢のメリットや

Q DBの場合、どのような選択肢や導入にあたっての留意点があるか。

A DBは給付が決まっていることから、退職金には最も適しているが、企業にとって追加負担というリスクがある。また、毎年決算を行い、財政のチェックが行われるという煩わしさがある。

Q DBの場合、どのような選択肢や導入にあたっての留意点があるか。

A DBは給付が決まっていることから、退職金には最も適しているが、企業にとって追加負担というリスクがある。また、毎年決算を行い、財政のチェックが行われるという煩わしさがある。

Q 加入事業所にとっての選択肢のメリットや

Q DBの場合、どのような選択肢や導入にあたっての留意点があるか。

A DBは給付が決まっていることから、退職金には最も適しているが、企業にとって追加負担というリスクがある。また、毎年決算を行い、財政のチェックが行われるという煩わしさがある。

Q 加入事業所にとっての選択肢のメリットや

Q DBの場合、どのような選択肢や導入にあたっての留意点があるか。

A DBは給付が決まっていることから、退職金には最も適しているが、企業にとって追加負担というリスクがある。また、毎年決算を行い、財政のチェックが行われるという煩わしさがある。



えんどうただひこ 早大卒、社会保険労務士。国内生保、外資系コンサル、テイク、信託銀行の企業年金部門を経て2014年11月、「遠藤年金労務コンサルテイング」を開業。17年間の企業年金業務の経験を生かして、執筆講演の他、年金福利厚生や労務問題の企業アドバイザーとして活躍。著書に「Q&Aこれだけは知っておきたい確定拠出年金(近世代セル)社がある」。

Q DBの場合、どのような選択肢や導入にあたっての留意点があるか。

A DBは給付が決まっていることから、退職金には最も適しているが、企業にとって追加負担というリスクがある。また、毎年決算を行い、財政のチェックが行われるという煩わしさがある。

Q 加入事業所にとっての選択肢のメリットや

Q DBの場合、どのような選択肢や導入にあたっての留意点があるか。

A DBは給付が決まっていることから、退職金には最も適しているが、企業にとって追加負担というリスクがある。また、毎年決算を行い、財政のチェックが行われるという煩わしさがある。

Q 加入事業所にとっての選択肢のメリットや

Q DBの場合、どのような選択肢や導入にあたっての留意点があるか。

A DBは給付が決まっていることから、退職金には最も適しているが、企業にとって追加負担というリスクがある。また、毎年決算を行い、財政のチェックが行われるという煩わしさがある。